



故 安川通雄教授



## 故 安川通雄先生を偲んで

高橋 雄介

安川通雄理工学部教授が2018年4月10日に逝去されました。63歳でした。安川先生は1998年より専修大学商学部教授として教鞭をとられている中、2008年4月から2010年3月まで中央大学理工学部非常勤講師として活躍して頂きました。2006年12月から2007年3月まで、筑波大学医学専門学群看護・医療科学類非常勤講師、2007年4月から2008年3月まで米国ウィリアム&メアリー大学客員教授をされました。2010年4月より中央大学理工学部教授として着任され、理工学部において生涯スポーツ科学を中心に学生を指導して頂きました。幼児期から高齢期に至るまでの各ライフステージにおける健康保持・増進に関する基礎的な知識から最新の情報までを、健康・スポーツ医科学の立場から紹介し、これからの生涯スポーツのあり方を丁寧に説明するクラスには、学生が入りきれない程の人気がありました。特に専門分野の健康・スポーツ科学において、一般の人の健康保持・増進および限界への挑戦をめざすアスリートたちの潜在的な可能性を開発するため、スポーツ医科学の立場から、それぞれの目的に応じたヒューマン・パフォーマンスの向上に関する諸要因を心身の両面から総合的にアプローチする研究に邁進されていました。

さらに、理工学部において新しいヒューマン・パフォーマンス系科目の設置において、積極的に時間を割かれました。安川先生が考えられたヒューマン・パフォーマンス系科目設置の趣旨です。

### ヒューマン・ウェルネス系科目設置の趣旨

「現代社会の中で人が豊かに生きるとはどういうことなのか、また、そのことはいかにして可能なのかについて追求していくことは、生涯にわたって生き活きと過すための生きがいの創造および健康保持・増進をデザインする上で重要な課題の一つである。近年、ウェルネス (wellness) という概念が注目されている。これは、WHO (世界保健機関) の示す健康の定義

をより積極的にかつ多次的にみた健康観を示し、1961年に米国のハルバート・ダンによって提唱された概念である。これを具現化させるための研究分野に関しては、健康科学をはじめ人間を対象とした研究に関連するあらゆる学際領域の多角的・多次的な視野からのアプローチが求められる。そこで、理工系の多彩な研究領域における最先端の科学技術や知識を活用し、からだと心のバランスを保ち、各人の潜在的な能力の可能性を探究するヒューマン・ウェルネス (Human Wellness) に関する研究教育プログラムを理工学研究科における設置科目として提供することは、現代社会における理工系研究教育の新たな役割の一端を担うものと考えられる。このヒューマン・ウェルネス系科目は、各ライフステージ (幼児期から高齢期) における一般の人、障害がある人、アスリートなど多くの人たちを対象として、それぞれの目的に応じたヒューマン・パフォーマンスの向上を図りながら、well-being な状態とは何かを追求する。このように多種多様なヒューマン・パフォーマンスをデザインするためには、理工系の科学的な研究領域と連携した健康・スポーツ・医科学的な立場から、人間の能力の可能性を追求する総合的な研究力を身につけることが望ましいものと思われる。このヒューマン・ウェルネスという視点を基にした教科目を展開することは、諸種の科学技術を応用しながら人間の潜在的な可能性を探究する中で、より良い生き方を科学的にデザインすることが可能な研究者の育成が期待され、広義には本研究科のモットーである“個性ある専攻・特色ある研究科”を促すものと考えられる。」

#### ヒューマン・ウェルネス系科目における到達目標

「本科目を履修することによって、ヒューマン・ウェルネスの総合的な知見を修得するとともに、これらの知識を基にして、各ライフステージにおける各人の目的に応じたヒューマン・パフォーマンスの向上を図る研究手法を身につけることが期待できる。」

安川先生のお人柄はとても真面目で温厚、細やかな心配りができる方でした。特に奥様を大事にされていることが普段の行動でよく分かりました。安川先生が築いて来られた研究・学生指導法が損なわれることのないよう、研究員一同精進してまいります。

心より御冥福を御祈り申し上げます。

## 安川通雄 教授 経歴・業績

生年月日 1955年1月12日

### 学 歴

1970年4月入学 1973年3月卒業 東邦大学附属東邦高等学校  
 1973年4月入学 1977年3月卒業 専修大学法学部法律学科

### 学 位

1996年8月取得 博士(医学)  
 <取得大学> 東邦大学  
 <論文題目> 体脂肪率からみた部位別皮下脂肪厚の分布  
 <分 野> 公衆衛生学

### 専 門 分 野

健康・スポーツ科学

### 経 歴

1979年4月～1980年3月 幼児体育研究センター巣鴨教室長  
 1980年4月～1981年3月 彰栄幼稚園非常勤講師  
 1981年4月～1983年3月 千葉明德短期大学幼児教育科非常勤講師  
 1983年4月～1987年3月 千葉明德短期大学幼児教育科専任講師  
 1985年4月～1987年3月 専修大学経済学部非常勤講師  
 1987年4月～1989年3月 専修大学商学部専任講師  
 1989年4月～1998年3月 専修大学商学部助教授  
 1991年9月～1992年8月 米国カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校神経科学研究所環境生理学研究室客員研究員  
 1993年4月～2007年3月 中央大学理工学部非常勤講師  
 1998年4月～2010年3月 専修大学商学部教授  
 2006年12月～2007年3月 筑波大学医学専門学群看護・医療科学類非常勤講師  
 2007年4月～2008年3月 米国ウィリアム&メアリー大学客員教授  
 2008年4月～2010年3月 中央大学理工学部非常勤講師  
 2010年4月～2018年4月 中央大学理工学部教授

## 学 会 活 動

日本体育学会

日本体力医学会

American College of Sports Medicine

日本運動生理学会

日本生理人類学会

日本民族衛生学会

## 学 外 活 動

1995年1月 平成6年度(財)日本オリンピック委員会・委託研究事業:(財)日本スケート連盟における高所トレーニング医科学サポート・スタッフ(スピード・スケート1995年ワールドカップ・ダボス大会およびインスブルック大会に同行)

## 論 文

種類	発行・ 発表年月	タイトル	著者名等	掲載誌・発行機関名・ 出版社名
論文	1981年 4月	漸増負荷に対する子どもの呼吸 循環応答	前嶋孝・安川通雄	日本体育学会編 体育の科 学 31 (4), 杏林書院
論文	1982年 3月	心拍数からみた子どもの縄跳び 運動時の運動強度	安川通雄・三浦貞子	千葉明德短期大学研究紀要 (4), 千葉明德短期大学
論文	1983年 7月	子どもにおける短なわ及び長な わ跳び運動中の心拍数	安川通雄	千葉明德短期大学研究紀要 (5), 千葉明德短期大学
論文	1984年 9月	トレッド・ミル運動における幼 児の心拍数—Pedometer 歩数	安川通雄	千葉明德短期大学研究紀要 (6), 千葉明德短期大学
論文	1985年 12月	幼児における保育中の心拍数	安川通雄	千葉明德短期大学研究紀要 (7), 千葉明德短期大学
論文	1987年 10月	スピード・スケート選手のリラ クゼーションおよびスタートの イメージリー中における生理 的变化	安川通雄・大石和男・ 木村瑞生・前嶋孝	専修大学社会体育研究所報 (34), 専修大学社会体育研 究所
論文	1988年 10月	GSR II 測定条件が抵抗値の変 化に及ぼす影響(左右差および 電極のりの影響について)	大石和男・安川通雄・ 木村瑞生・前嶋孝	専修大学社会体育研究所報 (36), 専修大学社会体育研 究所
論文	1989年 3月	スピード・スケート選手におけ るイメージ・トレーニング中の 皮膚抵抗値, 心拍数および脳波 の変化について	安川通雄・大石和男・ 木村瑞生・前嶋孝	専修大学体育研究紀要(12), 専修大学社会体育研究所

論文	1990年 3月	スピード・スケート選手におけるイメージによる500mの滑走タイム	安川通雄・大石和男・木村瑞生・前嶋孝	専修大学体育研究紀要 (13), 専修大学社会体育研究所
論文	1990年 3月	子どもの発育に伴う心拍数—酸素摂取量関係の変化	前嶋孝・安川通雄・大石和男	専修大学体育研究紀要 (13), 専修大学社会体育研究所
論文	1990年 3月	等尺性力発揮に伴う皮膚電気活動の変化	大石和男・安川通雄・木村瑞生・前嶋孝	専修大学自然科学紀要 (21), 専修大学自然科学研究所
論文	1992年 3月	イメージによる動作遂行中の生理的パラメータの変化	大石和男・木村瑞生・安川通雄・前嶋孝	体育学研究 36 (4), 日本体育学会
論文	1993年 3月	最大酸素摂取量および運動持続時間の変動特性	前嶋孝・安川通雄・大石和男・木村瑞生	専修大学体育研究紀要 (16), 専修大学社会体育研究所
論文	1994年 3月	精神作業時のH反射—運動イメージ想起時との比較—	大石和男・木村瑞生・安川通雄・前嶋孝	専修大学体育研究紀要 (17), 専修大学社会体育研究所
論文	1994年 7月	Amplitude reduction of H-reflex during mental movement simulation in elite athletes	Oishi, K., Kimura, M., Yasukawa, M., Yoneda, T., Maeshima, T.	Behavioral Brain Research 62 (1), Elsevier Science
論文	1995年 3月	運動イメージ想起中のH反射と自律系効果器活動および主観的評価	大石和男・安川通雄・木村瑞生・前嶋孝	専修大学体育研究紀要 (18), 専修大学社会体育研究所
論文	1995年 5月	スポーツ選手の体力特性と運動負荷法	前嶋孝・安川通雄・大石和男・木村瑞生	運動生化学 (7), 日本運動生化学会
論文	1995年 5月	漸増負荷法による運動持続時間と最高心拍数の変動	前嶋孝・安川通雄・大石和男・木村瑞生	疲労と休養の科学 10 (1), 疲労研究会
論文	1995年 7月	Total body fat estimations by near-infrared interactance, A-mode ultrasound, and underwater weighing	Yasukawa, M., et al. (5)	Applied Human Science, Journal of Physiological Anthropology 14 (4), Japan Society of Physiological Anthropology
論文	1996年 3月	体脂肪率からみた部位別皮下脂肪厚の分布	安川通雄	民族衛生 62 (2), 日本民族衛生学会
論文	2002年 11月	男性大学生の喫煙・飲酒習慣とタイプA行動様式	大石和男・安川通雄	日本生理人類誌 7 (4), 日本生理人類学会
論文	2002年 12月	食習慣とタイプA行動様式に関する予備調査	大石和男・安川通雄	専修大学体育研究紀要 (26), 専修大学社会体育研究所
論文	2003年 8月	Type A behavior pattern and sports injuries	Nigorikawa, T, et al. (5)	体力科学 52 (4), 日本体力医学会

論文	2004年 3月	大学新入生に対して半期間実施された体育演習後の体力指標の向上	大石和男ほか4名	専修大学体育研究紀要(27), 専修大学社会体育研究所
論文	2005年 10月	大学新入生に対する体育演習後に観察された状態不安の低減傾向	大石和男ほか6名	専修大学体育研究紀要(29), 専修大学社会体育研究所
論文	2006年 3月	外気功がスピリチュアルな価値観に及ぼす影響について	濁川孝志・安川通雄・ 大石和男・佐藤眞志	立教大学コミュニティ福祉学部紀要(8), 立教大学コミュニティ福祉学部
論文	2006年 3月	看護学生のタイプA行動パターンと食物摂取状況	西川浩昭・安川通雄・ 大石和男	民族衛生72(2), 日本民族衛生学会
論文	2007年 12月	大学生における生きがい感と死生観の関係—PILテストと死生観の関連性	大石和男・安川通雄・ 濁川孝志・飯田史彦	健康心理学研究20(2), 日本健康心理学会
論文	2008年 8月	死生観に関する教育による生きがい感の向上—飯田史彦による「生きがい論」の応用事例	大石和男・安川通雄・ 濁川孝志	トランスパーソナル心理学/ 精神医学8(1), 日本トランスパーソナル心理学/ 精神医学会
論文	2009年 7月	気功がスピリチュアルな価値観に及ぼす影響—タイプA行動様式の変容の視点から	濁川孝志・大石和男・ 安川通雄・佐藤眞志	トランスパーソナル心理学/ 精神医学9(1), 日本トランスパーソナル心理学/ 精神医学会
論文	2012年 2月	大学生の腰痛と心理的要因の関連性	遠藤伸太郎・和秀俊・ 石渡貴之・加藤晴康・ 濁川孝志・大石和男	体力科学61(1), 日本体力医学会
資料・ 史料	1990年 7月	Aモード式超音波皮脂厚計におけるプローブ使用に関する基礎的研究	大石和男・安川通雄・ 前嶋孝	The Annals of Physiological Anthropology 9(3), 日本生理人類学会
資料・ 史料	1993年 3月	イメージ動作における時間評価の正確性	安川通雄・大石和男・ 木村瑞生・前嶋孝	体育学研究37(4), 日本体育学会
その他	1980年 4月	調査報告: スピード・スケート選手の氷上トレーニングへの移行に伴う身体諸機能の変化	前嶋孝ほか6名	日本体育協会スポーツ科学研究報告, 日本体育協会
その他	1989年 3月	総説: 皮膚電気活動とメンタル・トレーニング	大石和男・安川通雄・ 前嶋孝	専修大学体育研究紀要(12), 専修大学社会体育研究所
その他	1989年 10月	調査報告: イメージ・トレーニング中の皮膚電気活動記録と分析の現状	安川通雄・大石和男・ 前嶋孝	専修大学社会体育研究所報(37), 専修大学社会体育研究所
その他	1993年 12月	紹介: 健康管理のための体脂肪率推定について	安川通雄	専修大学社会体育研究所報(41), 専修大学社会体育研究所



その他	1994年 12月	紹介：体脂肪測定法における新しい研究の方向	安川通雄	専修大学社会体育研究所報(42), 専修大学社会体育研究所
その他	1995年 7月	調査報告：スピード・スケート選手の高所トレーニングにおける医・科学サポートのための基礎的研究	前嶋孝・安川通雄・大石和男・木村瑞生	平成6年度日本オリンピック委員会スポーツ医・科学研究報告JOC高所トレーニング医・科学サポート-第4報-(No. IV), (財)日本オリンピック委員会
その他	1995年 7月	調査報告：小型血中乳酸濃度測定器 (Accusport) の精度について	前嶋孝・安川通雄・大石和男	平成6年度日本オリンピック委員会スポーツ医・科学研究報告JOC高所トレーニング医・科学サポート-第4報-(No. IV), (財)日本オリンピック委員会

## 著書 (共著)

種類	発行年月	タイトル	著者名等	出版社名・発行機関名等
共著	1986年 10月	「からだと遊び」第2章-1, 第3章-1, 2 「幼児体育とは」	島山トミ編	学術図書出版社

